

—基礎研究から学ぶ—

新シリーズ「組織細胞化学シリーズ（若手研究者へのヒント）」
に向けての序言

瀧澤 俊広

日本医科大学大学院医学研究科分子解剖学

組織細胞化学とは、研究者の対象とする生体分子の局在や動態を細胞、組織、臓器中で明らかにしようとする手法です。皆さんの研究において、組織細胞化学を行おうとした時、どのようにしたらよいのか、また、たくさんの方法の中からどれを選択したらよいのか迷うことも多いかと思います。その解決法として、関連機関(解剖学教室、病理学教室、形態系研究施設等)に相談されてみるのがよいでしょう。長年、組織化学の経験を持たれる先生が必ずおられ、アドバイスをいただけることでしょう。しかし、どのような方法にも一長一短があり、このやり方ですべて上手くいくという方法はありません。その意味において、形態学の経験を有する先生からアドバイスをいただいても、そのやり方で上手くいかないことは起こりえます。大切なことは、そこを起点として、失敗しても諦めず、創意工夫を繰り返しながら研究を進めることであると考えます。

「基礎研究から学ぶ」シリーズの第二弾として、これから形態学的解析をはじめたいと考えている若手会員の方に、汎用される機会の多い組織化学手法を中心に、そのポイントと先端の技術情報を提供し、若手研究者の将来の医学研究に貢献することを目的にしています。第1回目は試料の固定と光学顕微鏡レベル、特に凍結切片(クリオスタット切片)を用いた蛍光免疫組織化学の技術、第2回目は共焦点顕微鏡の技術、第3回目は免疫電顕の解説を予定しています。第4回目は *in situ hybridization* の技術、第5回目は先端の緑色蛍光蛋白質(GFP) バイオイメージング技術の情報提供を企画しています。第6および第7回目は病理標本における免疫組織化学を中心とした技術、最終回の第8回目は組織化学データをどのように臨床統計解析するのか解説する予定です。このシリーズが、会員の皆様の医学研究にお役に立てたら幸いです。